

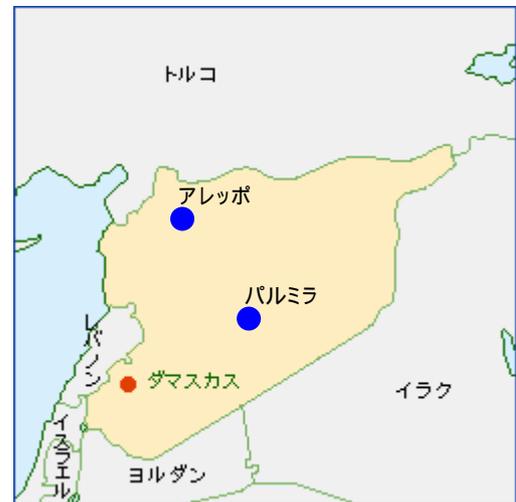
トルコのアンタキヤという街を經由して、シリアに入国した。  
日本人旅行者の誰もが、『シリア人は最高』と言うので、かなり興味を持っていた。  
まずはシリアの概要。

- 1.面積 : 18.5 万 km<sup>2</sup> (日本の約半分)
- 2.人口 : 1,800 万人 (03 年推定)
- 3.首都 : ダマスカス
- 4.人種 : アラブ人 85%、他にアルメニア人、クルド人、パレスチナ人
- 5.言語 : アラビア語 (公用語)(都市部では英語・仏語が通用)
- 6.宗教 : イスラム教 85%、キリスト教 13%
- 7.略史 : 1918 年 オスマン・トルコより独立  
1920 年 仏の委託統治領となる  
1946 年 仏より独立



### アレッポ城

シリア北部の街アレッポはシリア第二の都市である。  
過去にはギリシャ人、ローマ人、ペルシャ人、十字軍、  
モンゴル人など多くの襲来があった場所らしい。  
シリアの誰もが【アレッポ】と聞いて、【アレッポ城】思  
い浮かべる、なんてコメントがガイドブックに載ってい  
る。過酷な歴史が物語るかのように、有名な城があるら  
しい。



そしてトルコから来る人は、まずこの街に滞在する事が多い。

アレッポの街に着いて感じたシリアの第一印象は、汚くてごみごみした感じ、いや正確に言うと、  
ごみごみではなく、ゴミがたくさん落ちている街。  
そしてトルコと比較すると、“貧乏”な雰囲気は際立つ。

もういろんな部分が壊れている自転車だが、路上で自転車修理を営業しているオジサンに何ヶ所  
か直してもらおう。だいぶ調子がよくなった。  
その自転車でお城を目指す。金曜日の昼のため、お店はほとんどが閉まっている。人もあまりい  
ない。いてもぼんやりしてる。

『お城はどこ?』と聞いてもほとんど通じない。シリア、大丈夫か、などと思った頃、大きなお  
堀のある城にたどり着いた。  
現在、堀に水は張ってないが、当時はどうだったんだろう。この乾燥した大地で掘りに水を掘る  
ことって可能なんだろうか。  
因みに十字軍がきても、モンゴル軍がきても難攻不落のお城だったそうだ。

建物自体は、均整が取れていてとてもきれい。高い場所から見るアレッポの街並みもとてもきれい。さすが300万人も住んでいるアレッポだけに大都市だった。



アレッポ城の22メートルの深さのお堀に掛かった橋。周囲は2.5キロメートル。

でもこの城の内部でさえゴミが散乱している。観光客が捨てたものも多いが、修復作業で使った資材の包装紙や発泡スチロールなんかも大量に散乱している。どうもシリア人、この辺の美的意識とか、公共意識とかが欠如している気がする。

ムハンマドは、豚肉を食べちゃいけない、と言ったけど、ゴミを捨てちゃいけない、とは言わなかったみたいだ。この後もオールドタウンを漕いだけど、何だかゴミが散乱しているので不快だ。

加えて...、金曜日のこの日、12時半頃、城の回りのモスクから一斉にコーランが鳴り響き、続いて各モスクで説教大会が行われている。何だか、渋谷駅前の街頭演説だのお店の宣伝だの、客引きの声だのが交じり合ったような感じでうるさい。

そんな時、路上で遊ぶ子供がいた。

私の自転車姿を見つけ飛び乗ろうとする。こんな事はトルコではなかったのでびっくり。最初は可愛かったが、あまりにしつこいのでだんだんとむかついてきた。そして人が漕ぐのを、荷台につかまり止めようとする。

近くのお祈りの会場ではやはり説教大会が始まっていて、なにやら大人達が座って人の話を聞いている。このガキは、この異教徒様にやはり会場に入れと言っているようだ。振り払っても振り払っても同じ事を繰り返すので、ちょっと怒ってやった。

でも全然ビビらない。正しい行為をしている人間の目をしていた。宗教ってコワイ。

ゴミが散乱しているシリアだが、噂通り、人はトルコよりも更にフレンドリーな国だった。ガキ達も、日本人の顔を見てきゃーきゃーと喜んでいる。そんなに珍しいのかなあ。アレッポって大都市のはずなのに。大人達もにこやかに挨拶してくれる。もう何人と握手したことか。日本人、と聞いて心の底から喜んでくれる人も多い。トルコも人が優しくしたが、輪を掛けてシリア人は親切みたい。なるほどいい国かも。

## アレッポのハمام

自転車で汗をかいたのでハمامへ行く事に。しかし閉まっていた。歩いている人に聞いたら、説教タイムがもうすぐ終わるので、あと20分も待っていれば入れるよ、というので道端で待つことに。

既に何人もの子供達に囲まれていてちょっとしたヒーローである。アラビア語が話せたらきっと

ものすごく楽しいだろうな。

道端には少年が店番をしているパン屋さんがあった。パンといってもフカフカでなく、ナン生地をつぶした様な平たいものだ。

直径25センチのものが15枚程度入って25シリアポンド(54円)。重さは1キロぐらいある。これが主食みたいだ。一家の昼食分という感じ。

今はどうか知らないが、ちょっと前までシリアは社会主義だった。でも子供が結構働いているのを目にする。キューバとは少し事情が違うようだった。改めてカストロってすごいと思った(教育に関しては)。



街のパン屋さん。パン屋といってもホブスと呼ぶ丸く平たい直径30センチほどのパンのみ。15枚程度で25ポンド(54円)。

シリアは、“ボラない国”としても有名である。

首都のダマスカスでは、多少あるらしいが、地方では、外人と見て高値を言ってくることはまずない。

このハمامにしても、店の前に明朗会計なメニュー表が貼ってある。もちろん全然わかんないけど。

ようやくハمامの人が登場。早速店の中へ。

熱いお湯を体に掛けながら待っていると、別の初老の人が来た。洗面台のところに座らせ垢すり開始。



ハمامの料金表。ちっともわからないが、“明朗会計”らしいことはわかる。

石鹸はアレッポ石鹸らしい。普通の石鹸とは少し違い、泡が立ちにくいですが、立った泡はクリーミーな気がする。アレッポという街は、【アレッポ城】の他に、【アレッポ石鹸】で有名なのだ。オリーブオイルから作る石鹸で、体の潤いに良いらしい。日本でも1個1000円、高いやつになると2000円で売っているらしく、日本人の旅行者はアレッポに来ると必ず買っていく。短期の旅行者になると、5-6キロのまとめ買いをするらしい。

でも日本人だけじゃなかった。【スーク】と呼ばれるマーケットには、このアレッポ石鹸を扱う店が多いのだが、そこへ行ってみると、イラクから来たと言う男性が、7キロ近くまとめ買いしている。

『そんなに買って、どうするの？イラクで売って？』と聞いたが、自分の家で使うんだそうだ。自分の女房が、この石鹸でないと駄目なんだそうだ。

因みに、このアレppo石鹸は、グレードがたくさん分かっている。お店によって5段階、6段階。星印がたくさんあるのが良いとされている。確かに星数の少ない物より、6星の物の方が、グリーンが深い色をしていてきれいだし、香りも断然高い。イラク人は3星を買っていた。ただ、見てくれは悪い。外側は黄土色。中はきれいなグリーンなのだが、外はただの汚い固まり。星数の刻印の仕方にしたって、結構いい加減に見える。でも店で半分に割らせると、その違いが分かるのだ(たくさんの店で徹底的に割ってもらったから、けっこう嫌な客だったかも)。

さてシリアのハママの話である。

実にゆっくりというか丁寧にやってくれた。トルコ(5点)の垢すりより大分良い。マッサージもトルコよりはうまい。チュニジア(8点)よりは物足りない感じ。従ってシリアは7点かな。すっかりきれいになって、たっぷり温まってロビーに戻ると、従業員の二人がうまそうに飯を食っている。

さっき少年が売っていた平たいナンを、カレーみたいな豆料理とピーナツバターの様な色をしたソース(これが何だか未だに良く分からないが美味しい)につける、そして生野菜。

野菜は丸かじり。何かの葉っぱと玉ねぎとカブ。当然の様に食っていけと言ってくれる。これがなかなか美味くて、ちょっとご馳走になるつもりが、大分おなかいっぱいになった。それにしてもシリアの人ってのはいい人が多い。



ハママの洗い台と、その先の洗い場。荒い台は、スチームかなんかで温められている。

## アレppoの街

ゴミは落ちているし、店は閉まっているし、人はあまり歩いていない、何か荒んだ街、という印象だったシリアだが、金曜日の説教タイムが終わると、店は一気にオープンし、人でごった返し始めていた。

一気に賑やかになった商店街で、生ジュースを作っている売店がある。

おいしそうに赤い液体を飲んでいる人がいたから作ってもらった。大きなジョッキで40シリアポンド(86円)。何だか良く分からないがもうすごく美味しい。ザクロのジュースは30シリアポンド(64円)。これもフレッシュで美味しい。健康の為に人参ジュースも作ってもらった。こちらは小さいジョッキで20シリアポンド(43円)。これはちっとも美味くない。

同じ並びにひっそりと酒を売っているところがある。

40シリアポンド(86円)のビールと65シリアポンド(140円)のワインを買う。何れもシリア産。ビールは何だか変な味がした。そういう物かもしれないが、ちょっと古い感じ。ラベルがない。王冠にはアラビア文字と英語でAI SHARK BEERと書いてある。次は他のビールを飲みたいところだ。

ワインは異常にあまい赤ワインだった。これもちょっと普通と味が違う様な。

シリア人も、他のアラブ人と同様に甘い物が大好きなようだ。

一見、食堂かなというような綺麗な店は、その多くがお菓子屋さん。大きなプレートにたくさんのお菓子が並んでいる。

そのほとんどがすごく甘そうなお菓子なので食べる方にはあまり引かれないが、装飾の美しさは大したものだと思う。

お菓子が好きな人にはたまらない国かも。

言っちゃ悪いが、ぐうたらなアラブ人の手が、この菓子屋さんだけは熱心に動いているのに感心してしまった。



街のお菓子屋さん。酒を飲まないせいか、甘いお菓子、甘いお茶、甘いジュースが大好きな人たちみたい。

そのまま賑やかな通りをふらふら歩いていると DVD 屋さんがあった。アメリカ映画を多く扱っている。きっと政治とカルチャーは別なんだな。日本映画もあったが全然知らないタイトルだ。値段を聞くと 3 ドルということだった。

店の主人が英語で唐突に『ポルノは無いんだ』と言う。おい、聞いてねーよ...(まだ)。

シリアには、ブラックマーケットも含めてポルノは無いんだという。

『トルコまで行けばあるんだけど...』と。何で申し訳なさそうなのかよく分からないぞ。

## パルミラへ

アレppoから、ホムスという街を経由してパルミラという街を目指す。

ロンリープラネット曰く、『シリアで 1ヶ所選べといわれたら、間違いなくパルミラである』と書いている。さらに地球の歩き方は、『ここを見なければシリアに来たことにならないと言ってしまうもいいだろう』と(相変わらず大上段だ)。

確かに、このパルミラは有名だ。何と言っても温泉がある(因みに遺跡もあるらしい)。

アレppoからホムスまではバスで 3 時間。ホムスからパルミラまでは 2 時間。料金は、いずれも何と 50 シリアポンド(108 円)だった。

トルコよりも物価が安い、とは聞いていたものの、この安さ何なんだろう。申し訳ない気がする。

## アラブ砦の夕日

パルミラに来た目的は、温泉 夕日 遺跡の順の私としては、砂漠に落ちる夕日を逃せない。パルミラの宿に着いたときには、既に 5 時近かったので、急いでアラブ砦へ。パルミラの街から 6 キロ離れた丘にあるアラブのお城である。丘の高さは 150 メートルほど。

太陽はどんと落ちていく。クロアチアでもしなかった猛ダッシュで坂を上がるが、バスが数台、軽やかに抜いていく。

汗びっしょりでアラブ砦に着いてみると、60人ほどの日本人が。私を抜いたバスには小綺麗な日本人が満載されていたようだ。砦の公用語は日本語と化している。シリアにまでツアーがあるなんて、すごいぞジャパンマネー。でも私に写真を撮って欲しい時には、何故か『エクスキューズミー』なんて言いやがる。俺ってそんなに汚いか？



パルミラの街からちょっといった先にある丘の上に建つお城(アラブ砦)からパルミラ遺跡側の眺め。

そして夕暮れが迫るに連れて、さらに多くの車やバスが到着。混雑してちっともムーディーじゃないぞ。というよりも、そもそもこの場所、一人じゃ確実にムーディーじゃないぞ。そうこうしている内に、夕日がすとんと砂漠に落ちた。確かにきれいだ。

### 砂漠の温泉へ

パルミラはさすがに観光地であった。ビールが70シリアポンド(151円)と高い。しかしアレppoで飲んだまずいシリア産のビールとは違う。良く見るとレバノン製のビールだった。

カメラ屋さんで、これまで撮った写真をCDに焼いてもらいながら温泉行きの相談をする。シリアには温泉が2ヶ所ある、という事は調べががついていた。何れもパルミラから行ける。ここから近いのはアバシア(Abbassia)という温泉で40km、遠いのは(Abo Rabbah)という温泉で100km。カメラ屋のオヤジは英語が堪能で、車のアレンジをお願いすると、500シリアポンド(1078円)で車を調達できた。

翌朝やってきたのはベンツ。ただし超中古のやつ。もうドイツでは絶対走っていない。キューバで見たアメ車みたいだ。運転手はタクシーの運ちゃんではなく、カメラやさんが探してきたその辺のオヤジ。彼は何か笑わない人でちょっと怖い感じ。

朝飯をまだ取っていなかったので途中でシシカバブ屋さんに寄ってもらった。その間、運転手がしきりと電話している。どこへ電話してるんだろうと、その時はちょっと気になった。

さていざ出発。ぼろ車にしては結構走る。さすがベンツ。でも気になるのは、途中から東へハンドルを切ったこと。東といえばイラクまっしぐらである。

パルミラからイラクまでは直線で100キロしかない。

このまま東へ爆走すると、1時間でイラク入りしてしまう。ハンドルを東に切ってから既に20分。確かシリア~イラク国境付近は、外務省から『渡航の延期をおすすめします』なんてやつが出ている。

そろそろヤバイかなあなどと思い始める私。

温泉へ出かけたことを宿の人は知らない。カメラ屋だけである。そう言えばあのオヤジ、昨日聞いたら、一番好きな国はフランス、二番はイラク、三番は日本と言っていたっけ。

二番と三番の違いは大きい。もしかしてこのカメラ屋、イラク武装勢力と繋がっているのでは...、などと頭によぎる。

もしかして、一番好きなフランスよりも、『マネー』が好きなのもかもしれない。

そう言えば、カメラ屋はフセインの肖像の入ったイラク札を昨日、自慢げに私に見せていたっけ...。

この運転手に『温泉はまだ?』と聞いてみるが、ずっと先という。このスピードで40キロの距離だったら、30分ぐらいで着きそうなもんだが、既に40分経っている。

そろそろ冗談じゃないなあ。そういえば朝飯を買うときにどこかへ電話をしていたっけ。よく見ると、顔つきも人相が悪い。

武装勢力の一味だとしたら、拳銃は、このボックスの中かなあ、などと、何気にチェックしてみる私。

こんな時、一人旅するのは実に不利である。

ここは砂漠のど真ん中。銃で打たれて砂に埋められたらぜったいわからんだらうなあ、遺跡になるくらい遠い将来に発掘されるのかなあ、などと思ってしまう。

でもその前に人質だ。パスポートを持ってこなかったのが、脅迫ビデオには登場しないんじゃないかなあ、とか、北朝鮮人と言ったら開放されるかなあなど考える私。

さらには、どうせ拉致されるなら温泉の後にして欲しい、とか、イラクにビールはあるのかとか、イラクにイクラはあるのかとか、実にシリアスな思いが頭によぎる。

アラブ人は、日本人よりも少し体がでかい。この運ちゃんと勝負したら勝てるかなあなどと思い始めた頃、ようやく温泉に到着した。あたりは砂漠というか、土漠というか、文字どおり何も無い。このエリアだけが忽然と緑が豊富な場所だった。

『水が文明を作り、温泉が文化を創る』と誰が言ったか(いや誰も言ってない)、とにかく砂漠に



行けども行けども砂漠だったが、遠くにオアシスが。その先にあるのが温泉。

温泉があるってのはすごい。

ここには温泉まんじゅうも無ければ、健康ランドも無ければ、ヨーロッパのようにドクターもない。ただただ、灌漑用の水源としての温泉があるだけある。

温泉が汲み上げられている場所の回りは木が生えていて、作物も実っている。全ては温泉の水で育っているのだ(贅沢だぜ)。

ポンプから太いホースが畑に伸びていて、その先からはシャーツと水が噴き出している。触ってみると水ではなく温水、しかも 40 度程度のものだ。

もともとオアシスってのは水が湧き出ている、それが温かきや温泉なわけなので、本当は珍しいのかもしれない。エジプトにはたくさん温泉があると聞く。だからシリアに 2 ヶ所ってのは納得できないのだが、あまり温泉に入らない民族なのかも。

カメラ屋のオヤジは、夏はほとんど行かない。行くのは冬だと言っていた。

このあたりの砂漠の下には、大塩田があるらしい。ところどころ掘られていて、白い地肌がむき出しになっていた。でも温泉をなめてみると、塩味はしない。硫黄臭のかすかに濁った味の無い水だ。

せっかくの砂漠なので露天が良かったが、屋外の浴槽はないみたいだった。10 畳ほどのブロックで作られた小屋に、5 x 5 メートルの浴槽。

私が行った時にはお湯が溜まっていなかったの、そこへ天井近くから一斉に放水してもらった。つまり打たせ湯になっている。台湾の打たせ湯も水の量がすごかったが、意図しているかどうかは別としてシリアもなかなかだ。

温度は 42 度程度。もちろん薄めておらず、掛け流し。完全に独占状態なので、当然全裸。

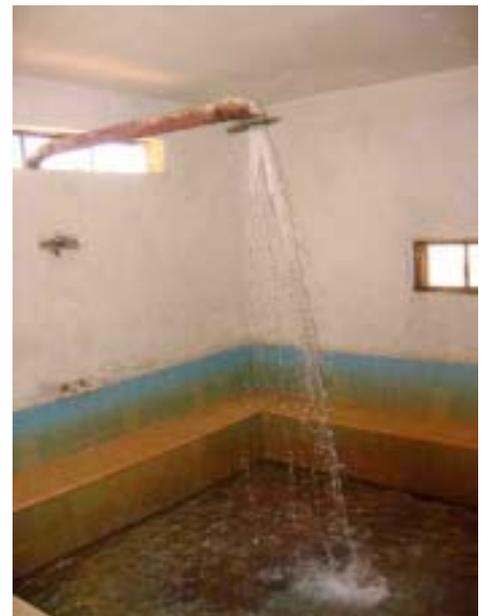
ほぼ完璧である。小屋には 4 方向に窓とドアがあり、爽やかな風が通って行く。何だか成分が強くてぐったりくる。水を 2 リットル持っていたが、温泉に入っている時に飲んでしまった。

砂漠の温泉、実に実に気持ち良いのであった。

運ちゃんも、私が満足しているのを見て実に楽しそう。

悪い、と思っていた人相も、何だか人の良いオヤジに変わっていた(たぶん私の精神状態が変わっただけと思うけど)。

温泉の帰りに延々と砂漠を歩く 4 人組みがいた。この車をヒッチしてるみたいだ。いつもは立っている側の私。運転手にどうする? と聞かれ、もちろん OK した。私に感謝するシリア人。なかなか気持ちいいぞ。



天井に近いところから温泉がすごい勢いで出てきた。力強い打たせ湯に。

## パルミラの遺跡

パルミラ遺跡の近くでチャーターした車を降りる。

この遺跡、ヨーロッパにある遺跡に比べて、保存状態が実に良い。普通は柱しか残っていないが、柱の上に台が乗っているなんて、中々すごいのである。

ギリシャのパルテノン神殿よりもすごいかも。遺跡の規模も大きい。

ただすっかり温泉疲れしている私には、ちょっとしんどい。

いや、それなりに遺跡は見たんだけど、その後ビールを飲みながらまったりしてしまっただけで、このレポートを書くのがしんどいのである。だからこのへんで…。

つづく



かなりよい状態で残っているパルミラ遺跡。遺跡の面積全体もけっこう広い。